

2014年12月号

## イベントの多い12月

中国もクリスマスムードで始まる12月だが、クリスマスの少し前に誕生日を迎えた私を、多くの外国人や中国人が温かく祝ってくれた。私の周囲では誰かが誕生日を迎えるたびに大勢で集まり盛大に祝うことが習慣となっている。なかには、出身地域で誕生日を祝う習慣がなく慣れていない留学生もいた。

クリスマスの時期には、山西大学内の語学留学生を中心としたクリスマス会が開催された。国際交流に関心のある中国人や外国人による出し物も行われ、それぞれの国や地域の文化などを出し物を通して紹介する内容も多かった。私も出し物に参加し、日本の伝統的な歌などを歌った。



クリスマス会の様子

この時期、山西大学の学生で構成される語学系サークルでも活動があった。私もそのサークルと関わりのある友人に招待され参加したが、非常に充実した内容だった。初日は多くの人が集まり食べたり飲んだりゲームを楽しんだりしながら交流するというもので、2日目はキャンパス内にある大きな食堂の地下で開催された。そこには商店やクリーニング店など様々な店がそろっている場所があるが、今回サークルでその一角を借りてメンバー自ら店を開き、ユニークな商品やメンバーが作ったお菓子を販売したり様々な国の商品でオークションを行ったりという活動でいずれもメンバーの団結力が感じられるものだった。中国の大学では、このように学生が自主的な活動を行い多様な経験を積む機会が多いという印象を受けている。

またある日には、山西大学の学生による放送局から取材を受けた。この大学には、学生団体が運営するテレビやラジオの放送局が存在する。学生が企画や制作を行い、その内容がキャンパスの広場に設置された大きなテレビなどで放送される。



学生のサークルが出した店の様子

今月は多くの科目が期末試験を来月に控えている時期でもある。日本語学科で日本語を教える中国人教師から日本語の試験問題作成に関して協力を求められた。ネイティブにしか分からない日本語のニュアンスに関する内容だったが、改めて日本語の複雑さや難しさに気づかされた。同じ東アジアの言語であっても中国語と日本語の差異は非常に大きいと感じる。

月末には、太原理工大学を訪問し、中国と諸外国との交流をテーマとした活動に参加した。太原理工大学の学長から教職員、中国人学生や留学生、そして山西大学からも何人かが参加し、幅広い人が集まる中で交流を深めることができた。



太原理工大学での活動

2014年12月号

さて、今月日本の内閣府は日本人の中国に親しみを感じない割合が 83%と過去最悪の調査結果を発表したという。在中日本企業の撤退ムードといった話も日中双方から耳にする。ロシアと米国の関係も悪化し新冷静とも言われるこの時期だが、こういった時期こそ中国に滞在していることは貴重な経験だと考えている。今後も国際社会の変化に目を向け、また実際に人々がどう考えているかに耳を傾けていきたい。

杉浦聡太